

# 高齢者の方などから「暮らしやすくなったね」と言ってもらえる地域づくりを目指して

小規模多機能型居宅介護事業所に生活支援コーディネーターを配置し、困りごとを抱えている方の相談を受けたり、気になる方へ声をかけて関係づくりに力を注いでいる。地域包括支援センターのエリアの一部が活動エリア。狭いからこそ気づけ、悪化させない支援が可能になっている。

体制整備に関するもの

② SC等の助け合い創出のプロセス

## 高齢者の方などから「暮らしやすくなったね」と言ってもらえる地域づくりを目指して ～小規模多機能型居宅介護事業所における生活支援コーディネーター業務～

### NPO法人楽が17年かけて培ってきたこの延長線上に生活支援体制整備事業が!!

- 2004年 認知症サービスひつじ雲を開設。認知症の人を中心に、本人の気持ちやリズムに合わせて了。
- 2006年 小規模多機能型居宅介護ひつじ雲に移行。きっかけは介護家族の「家族は手足を伸ばして、ゆっくり眠れないわね」の言葉。同時に若年性の方も利用できる認知症サービスくらげ雲を開設。
- 2009年 地域活動のホト。地域の食中会をはじめ。
- 2015年 期限付きの地域の空き倉庫を改修してひつじcafeをはじめ。この頃から様々な活動が始まった。コーヒーを飲みに来る方々の情報交換の場になり、暫く見えない方にも配慮し、cafe担当や地域の方々の自宅を訪問して、一人暮らし男性は1人で寝込んでいた。お互いサポートした事例だ。
- 2019年 「小地域における生活支援体制整備モデル事業」の受託。生活支援コーディネーターの取り組み開始。

### 運営推進会議での話し合いから始まった町内全館での地域の食中会

- ～地域交流産かなくとも、人々を繋ぎ、顔見知りが増え、地域活動に繋がりが...～
- ・民生委員の地域活動の理解から、町内全館で（借りて）食中会を開催。（平成21年8月）
- ・食中作りは管理栄養士のボランティアの皆さん。素材衛生を毎回チェックして食事前の講話と口腔体操も。
- ・食中のメニューも活動メニューも豊かに!



平成21年8月7日 第1回食中会

のっけてごはん  
・万能薬味

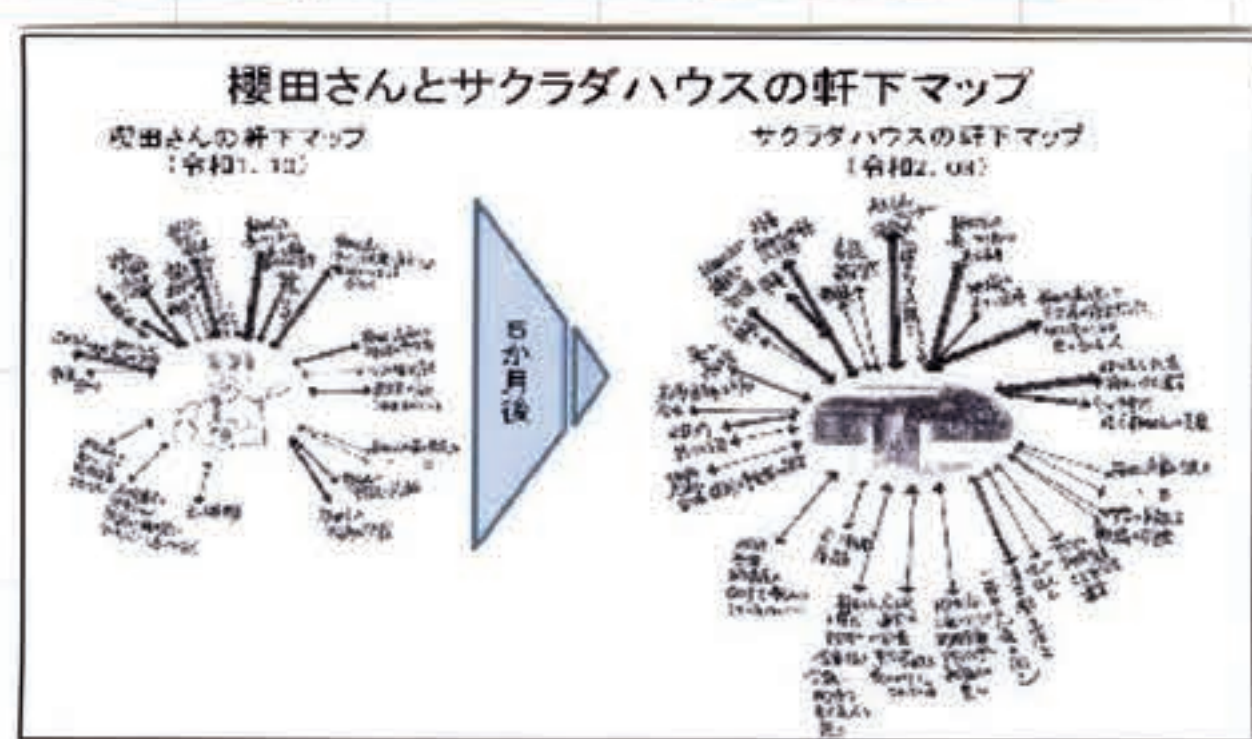
夏野菜の五彩  
・胡瓜の塩昆布和え  
・トマトのわかめ和え  
・南瓜の蟹あんかけ  
・茄子の生姜そばろ  
・切干大根の酢漬

鮭の韓国味噌焼き  
胡麻汁  
わらび餅



様々なメニュー

### モデル事業を通じた中幸町の取り組みから～「サクラダハウス」から学んだこと

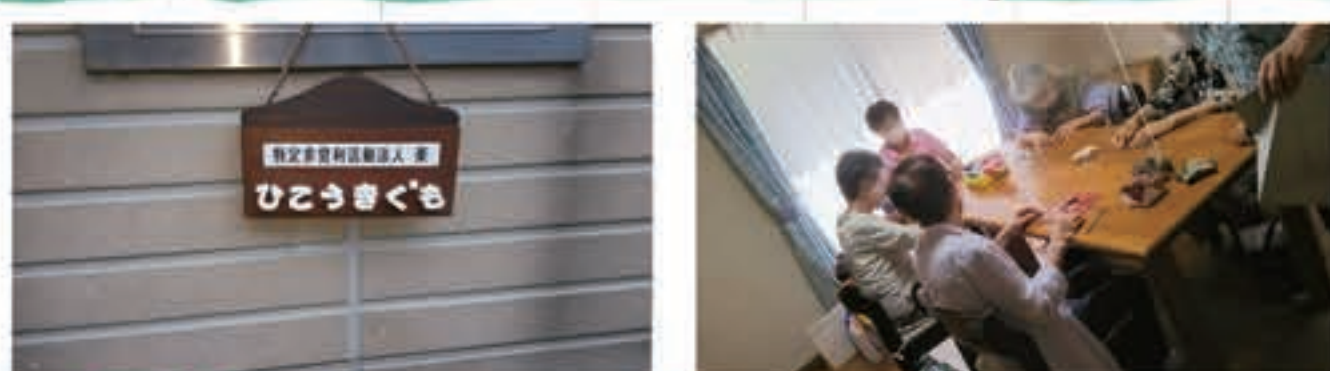


- ・特養から時々「自宅に戻りたい」と希望。急に亡くなり、交流拠点の開設はできなかった。教訓は「この山（ほど）はいい」。
- ・櫻田さんは叶いたいことがあった。「わたし～したいの実現」。
- ・櫻田さんの戸を叩くと「いつ帰ってくるの」と気にかけてくれる言葉が。
- ・櫻田さんのリズムがあった。「住民には住民のしきたりやルールがある」「急ぎたいは守る者側」。
- ・集まる場所があれば、春から出て、人と集まる。集まる場所、集まる場所、集まる場所。
- ・気になる人は「放っておかない」「巻き込む」。



特養入所中の櫻田さんの「自宅に戻りたい」と実現するためのプロジェクト・地域交流拠点の準備を開始

### これからのひつじ雲の取り組み～小規模多機能型居宅介護事業所の強みを用いた生活支援コーディネーター業務～



コロナ禍の中で、地域へ新たな役割を、ひつじ雲でサポートを徹底し再興

※宅居とは違い限定的にエリアで生活支援コーディネーターとして活動する。コーディネーターの理解が進むようにチラシを持ち歩き、機会あるごとに説明し、手渡しする。（宅居の狭いエリアで活動）



- ・ひつじ雲の生活支援コーディネーターは4人。
- ・行動内容は
  - ①担当エリアを回り、気になる人に声をかける。関係作り。支援の必要な人を見出し、ゆっくり関係性を構築する。
  - ②活動エリアの社会資源の把握に取り組む。地域の商店、スポーツ交流の場など。
  - ③家のあり方々との関係を切り取り、変わりながら、困りごとには互いにかぎの確認状況によっては、地域包括支援センターなどと相談。必要時は同行訪問。
  - ④気になる人、見守る人が混ざって毎日定期的に開く。外に出ると、会うのが楽しみ。気分転換に繋いでいる。
  - ⑤気になる人を取り巻く関係者・関係機関を軒下マップに描く。気になる人の関係者が具体的に見え、協力体制が取り易くなる。